

～自動車リサイクルシステム～

自動車メーカーが果たしてきた役割と

今後のあるべき姿について

2008年12月9日

社団法人 日本自動車工業会

# 全体構成

## 1. 自動車メーカーが果たしてきた役割についての整理

- (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施
- (2) (1)に必要な体制の整備
- (3) 関係事業者との連携によるシステム全体の円滑な運営
- (4) 適正なりサイクル料金の設定
- (5) 3Rへの取組みと関係者への各種情報の適切な提供

## 2. 将来の自動車リサイクルシステムのあるべき姿

- (1) 運用面での要望事項
- (2) 今後の検討課題
- (3) 路上放棄車処理協力会による寄附終了

## 1. 自動車メーカーの果たしてきた役割についての整理

(1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

(2) (1)に必要な体制の整備

(3) 関係事業者との連携によるシステム全体の円滑な運営

(4) 適正なりサイクル料金の設定

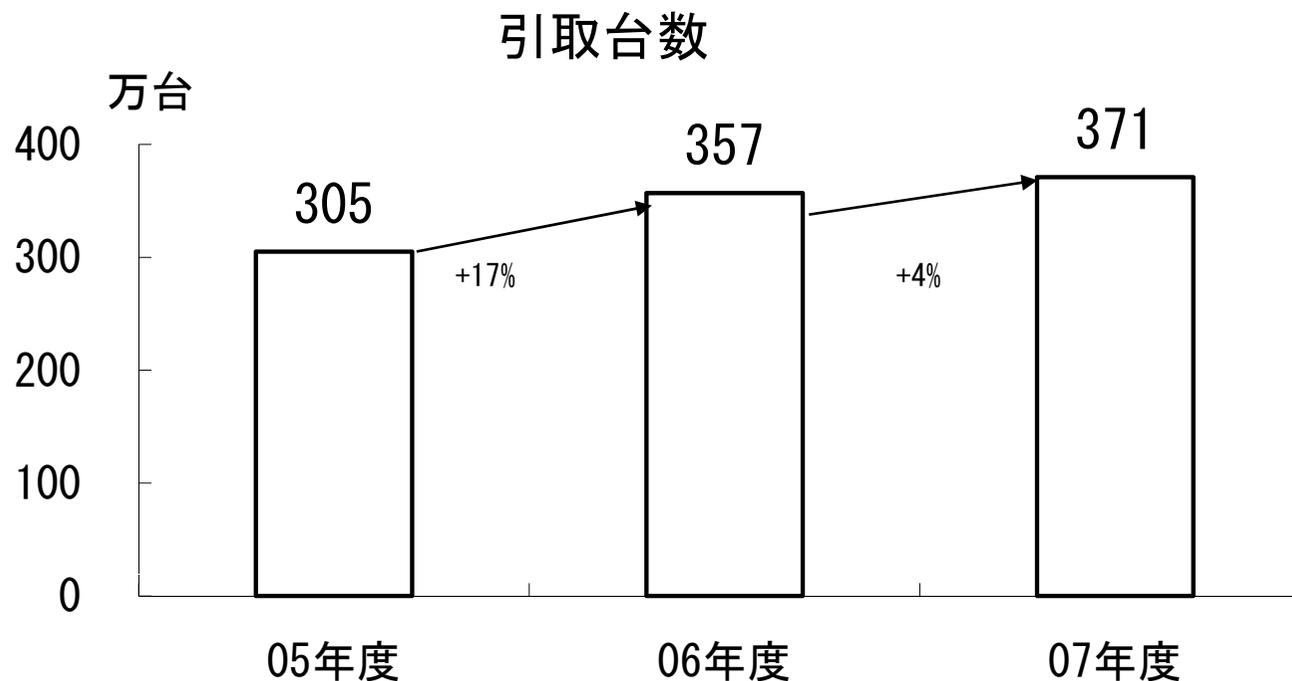
(5) 3Rへの取組みと関係者への各種情報の適切な提供

01年9月 産業構造審議会環境部会 廃棄物・リサイクル小委員会  
自動車リサイクルWG「新たな自動車リサイクルシステムの構築  
に向けて」P44・45より

## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### ①車両の引取状況

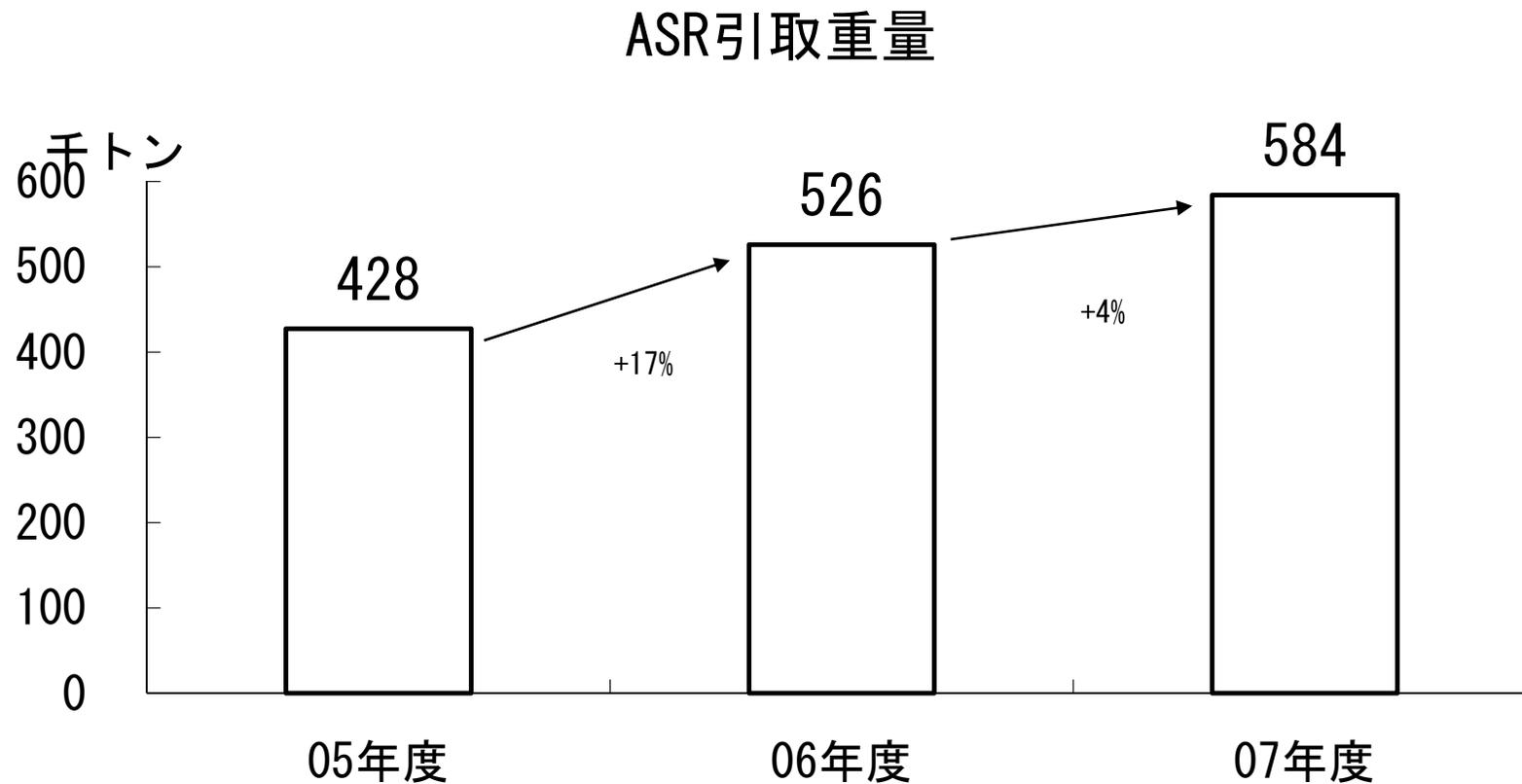
- ・ 05年度 305万台、06年度 357万台、07年度 371万台と順調に台数増。
- ・ 但し、増加の幅は徐々に縮小しており、自動車リサイクルシステムも安定運用期に入ったものと判断。



## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### ②ASRの引取状況（引取重量）

- ・使用済自動車の引取台数の増加に合せ、引取ASR量も増加。

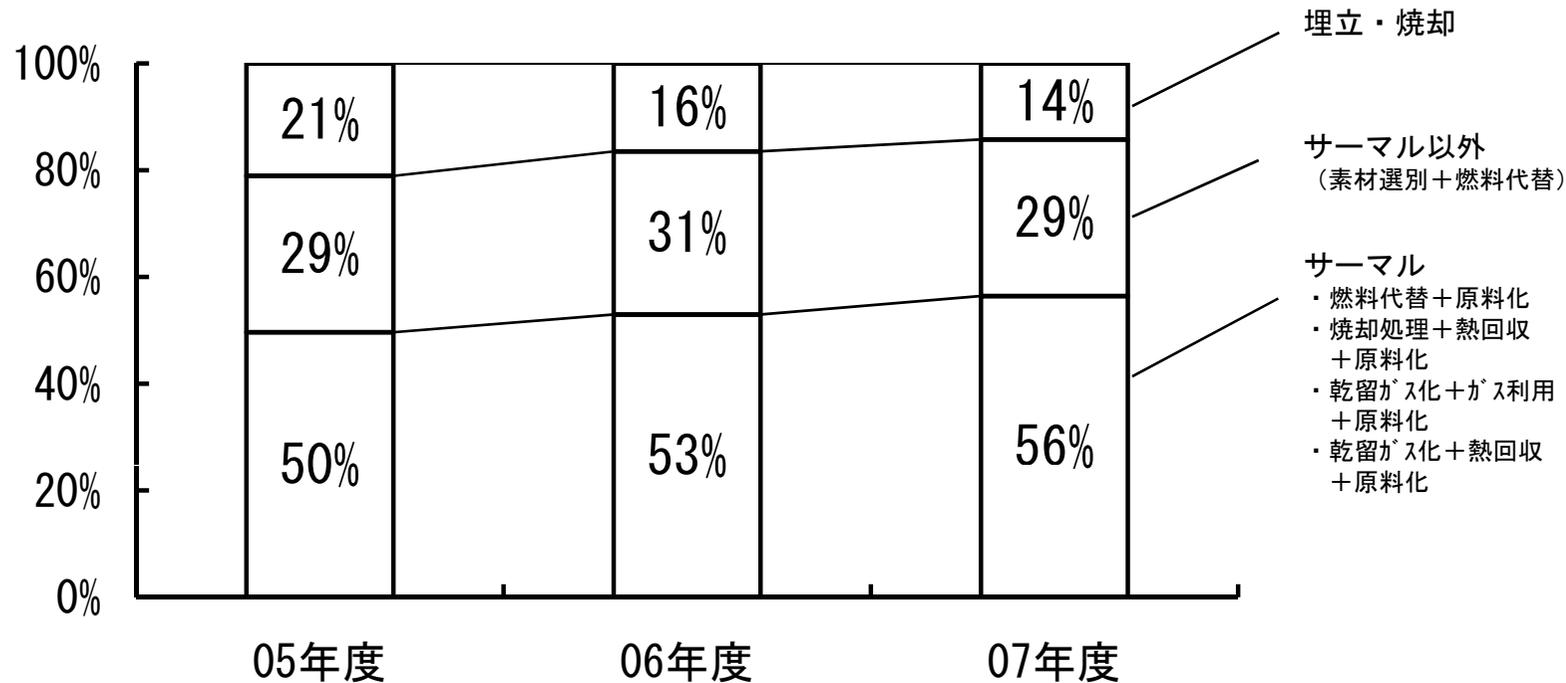


## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### ③ASRの引取状況（施設別差配バランス）

- ・再資源化施設への差配については、地域毎のASR発生量に応じて受入能力・運搬距離・コスト等を勘案し最適となるよう決定。
- ・サーマル施設への差配増加とともにリサイクル率向上。

施設種類別ASR差配比率

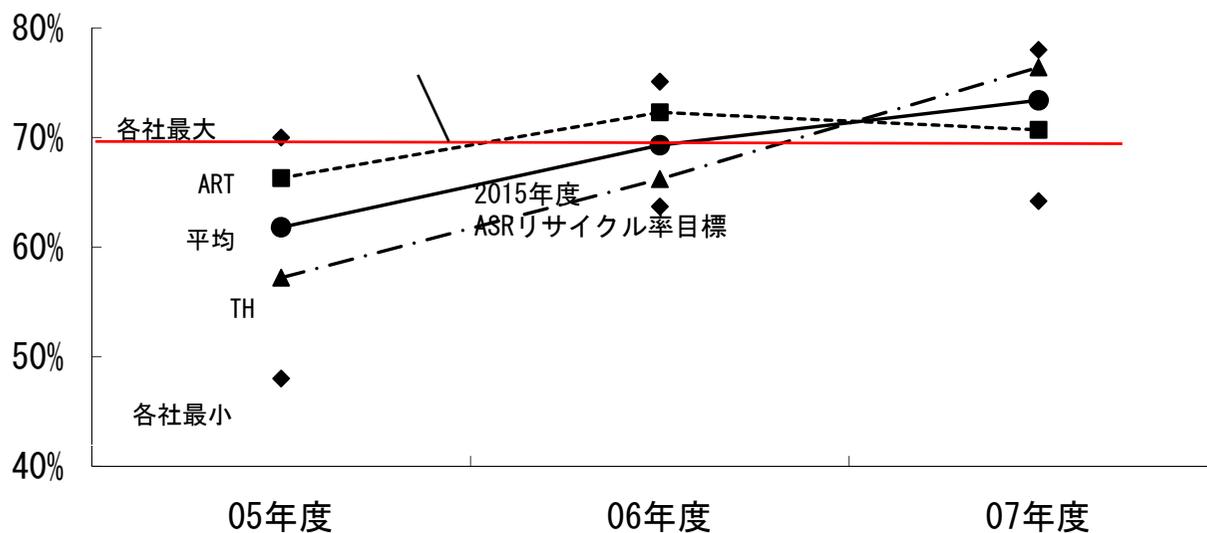


## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### ④ASRの引取状況（ASRリサイクル率）

- ・リサイクルインフラの充実（稼動リサイクル施設数：施行前4施設 ⇒ 施行後31施設）の他、自動車メーカーが2チームに分かれ競い合った結果、07年度の全メーカー平均のリサイクル率は73.4%と施行後3年で2015年ASRリサイクル率法定目標を前倒し達成。
- ・ただし、達成状況はチーム・メーカー毎にばらつきあり。

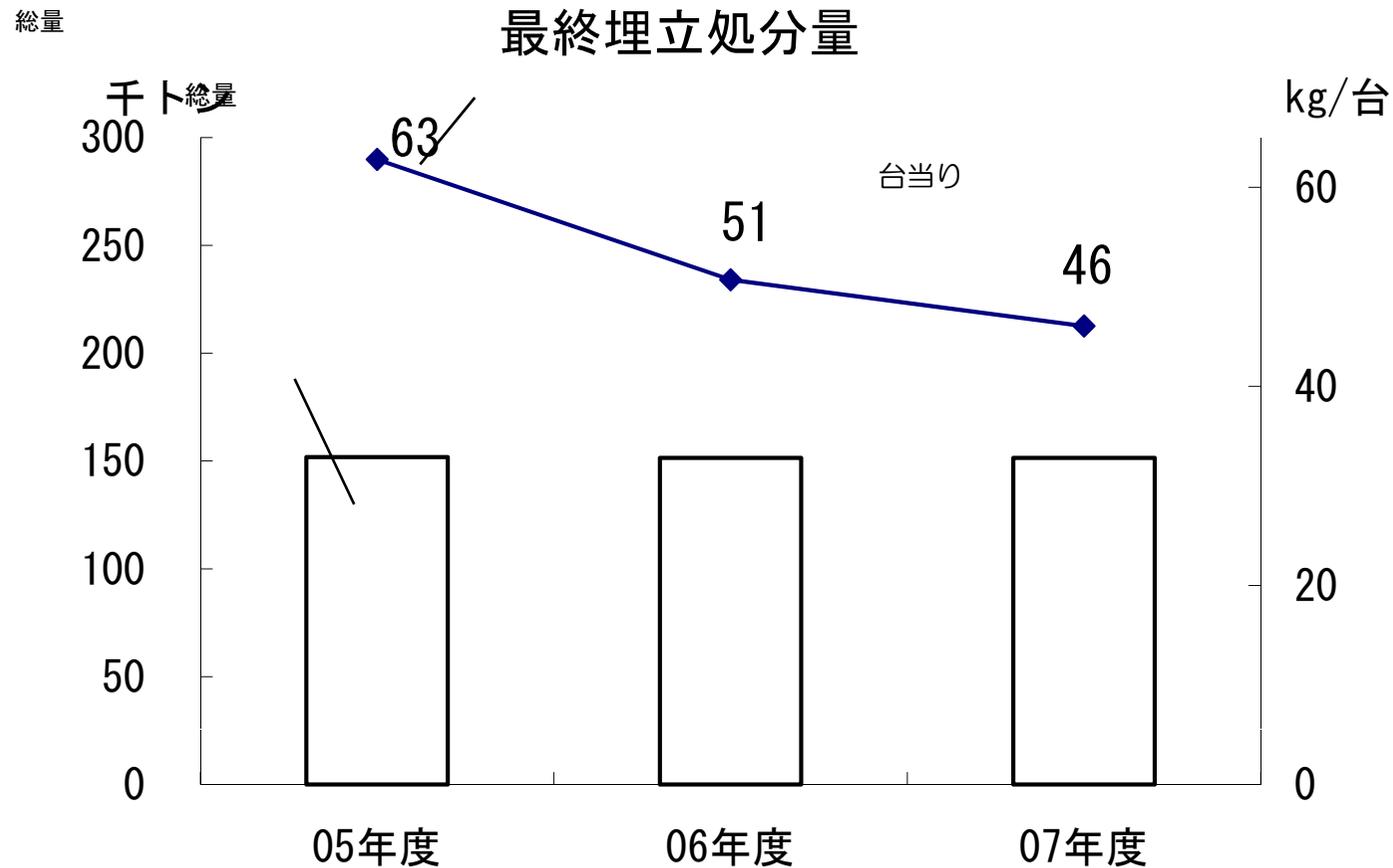
ASRリサイクル率



## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### ⑤ASRの引取状況（最終埋立処分量）

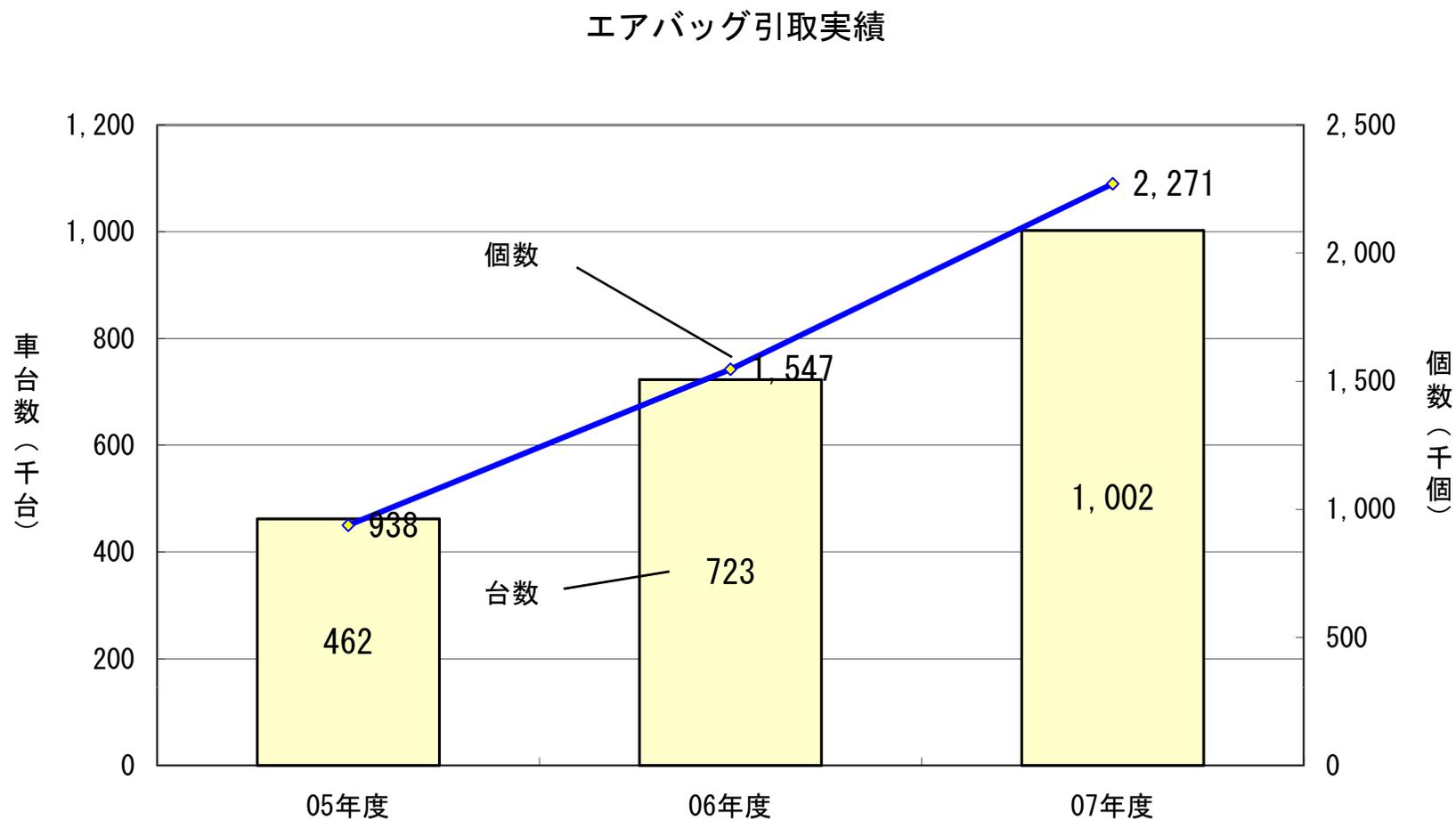
- ・埋立処分量総量は横ばいだが、台当り埋立処分量は減少傾向。  
⇒リサイクル率アップ



## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### ⑥エアバッグ類の引取状況（引取台数・個数）

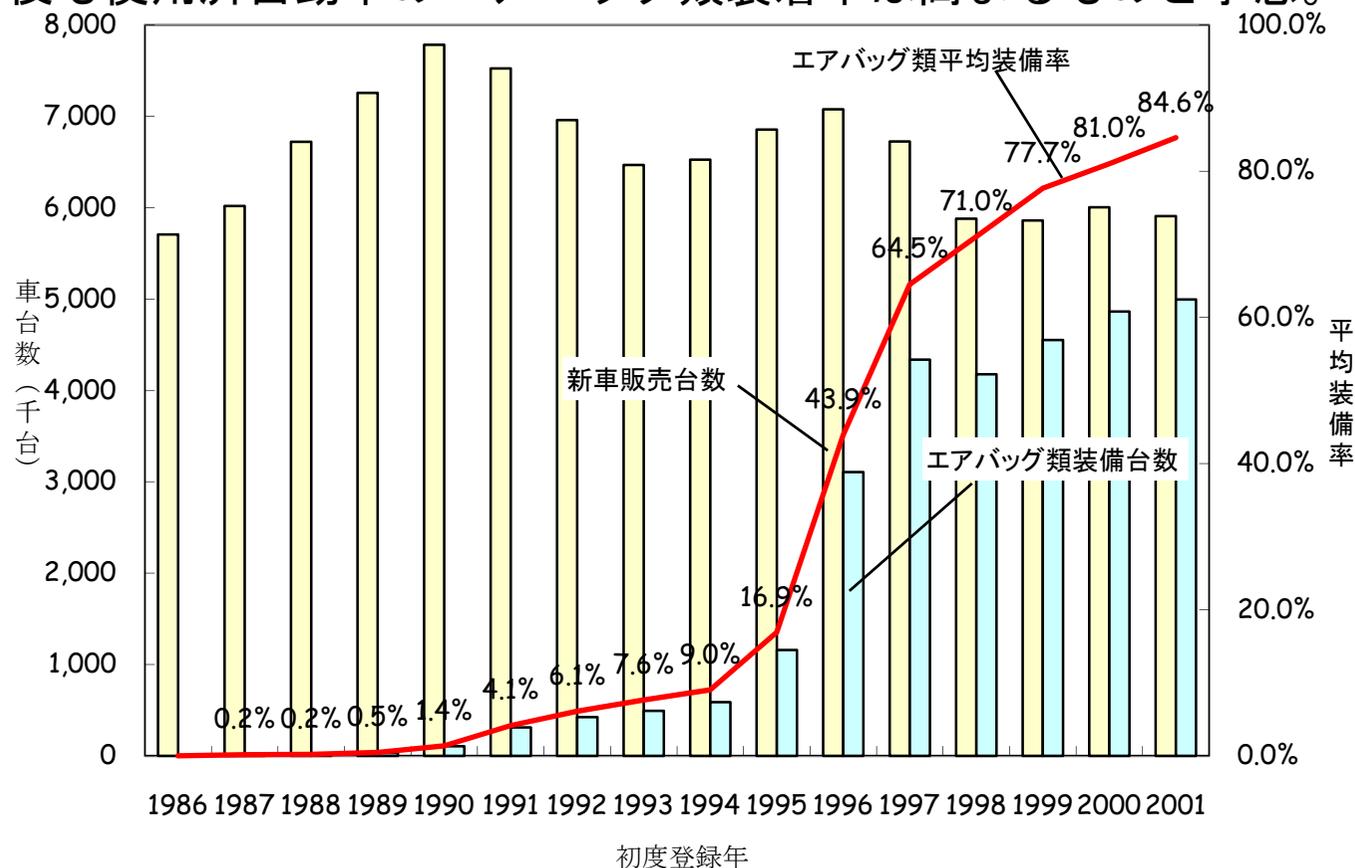
- ・エアバッグの装着率上昇もあり、法施行以降、順調に引取実績増加。



## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### (参考) エアバッグ類装着率推移

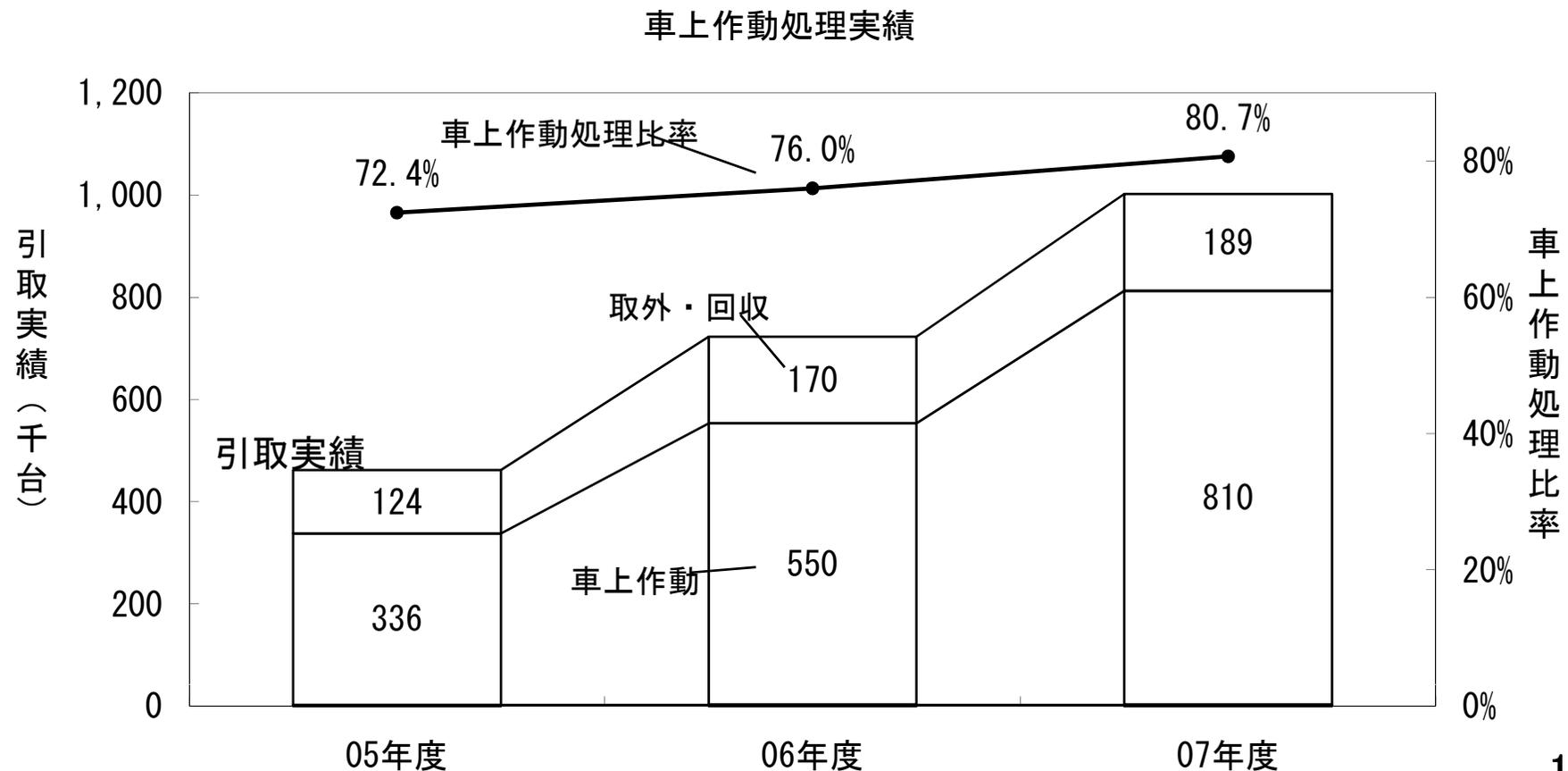
- ・ 88年に装着が開始されて以降、エアバッグ類装備台数・装着率ともに急増。  
特に96年以降の伸びが顕著。
- ・ 現在販売されている新車のエアバック類装着率は更に向上しており、今後も使用済自動車のエアバッグ類装着率は高まるものと予想。



## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### ⑦エアバッグ類の引取状況（車上作動処理）

- ・ 今後、取外し・回収せざるを得ない機械式エアバッグが減り、電気式エアバッグが増えることから、現在でも8割を超える車上作動処理比率はますます高まり、処理の一層の効率化が図られるものと予想。



## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### (参考) 車上作動処理について

- ・ 自工会として、エアバッグ類の一括作動ツールを共同開発し、全国の解体事業者の斡旋。
- ・ 車上作動監査の折にヒアリングした内容（車両側コネクタの搭載位置の変更要望等）については、自動車再資源化協力機構（自再協）からメーカーへ報告・情報共有し、各メーカーにて設計部門へフィードバック。

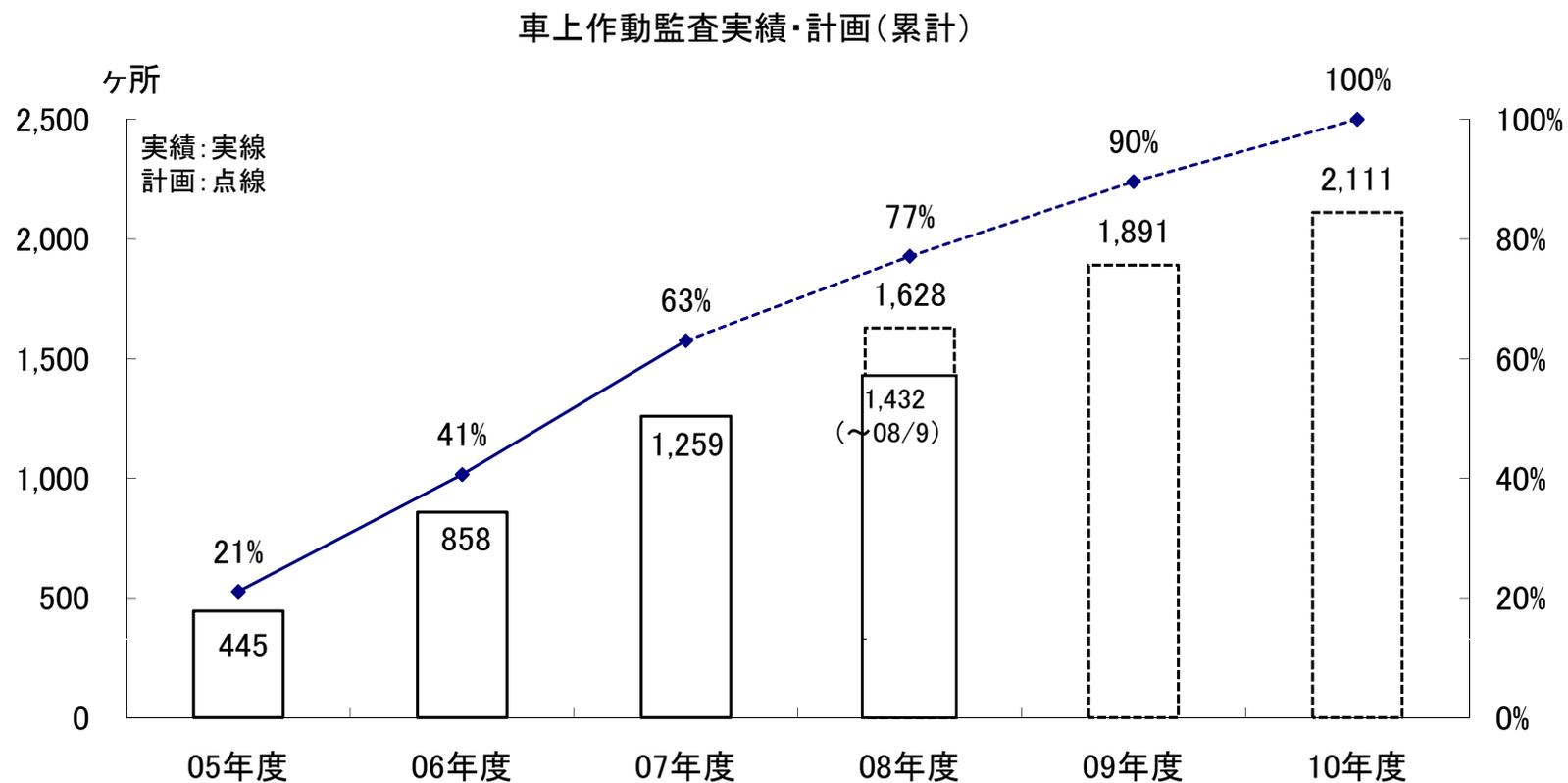
<一括作動ツール（JAMA方式）>



## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### (参考) 車上作動処理の自主監査活動 1

- ・エアバッグ類の適正処理を徹底するため、自再協と連携し、車上作動を契約している解体事業者に対し、車上作動処理監査を毎年計画的に実施。
- ・08年3月末までの累計で1,259事業所（作動処理実績のある事業所の63%、作動処理実績の91%をカバー）について実施。2010年度までにはすべての契約事業者に対する最低1回の監査実施予定。



## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### (参考) 車上作動処理の自主監査活動2

- ・ 車上作動処理監査では下記内容について適合・不適合を判定し、不適合の項目については速やかな改善を要請。

監査観点	確認内容（約80項目）	確認方法
遵法性	法律・契約に従った業務の遂行状況 （例）・周辺環境に変更がないかの確認 ・ガイドラインに沿った業務手順の確認	書類等の管理状況や業務取回し等を現物・ヒアリングで確認
作業安全性	事故等を防止するための安全対策実施状況 （例）・ガラス等の飛散防止 ・5m以上の距離確保	安全対策の実施状況を実作業で確認
実績管理の 確実性	処理実績の管理状況 （例）・必要項目の記入漏れ ・作業実績とマニフェスト情報との照合	処理状況に疑義がないことを帳票・実車で確認

- ・ 不適合判定の事業所については改善実施結果を1～2週間以内に書類または写真にて提出いただき確認。  
また、1年後には帳票等による書類監査を実施し、「実績管理の確実性」が維持されていることを再確認。
- ・ 監査所要時間・人数：3時間・2人/事業所
- ・ 年間監査実施件数：約400事業所/年

## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### (参考) 車上作動処理の自主監査活動3

- ・ 作業内容又は管理体制に何らかの指摘事項(ex. 保護メガネ・マスク未着用)のあった事業所延べ642事業所に対しては、すべて改善・指導を行った。
- ・ 今後も車上作動処理監査については順次拡大・継続し、車上作動処理の適正を図って行く所存。

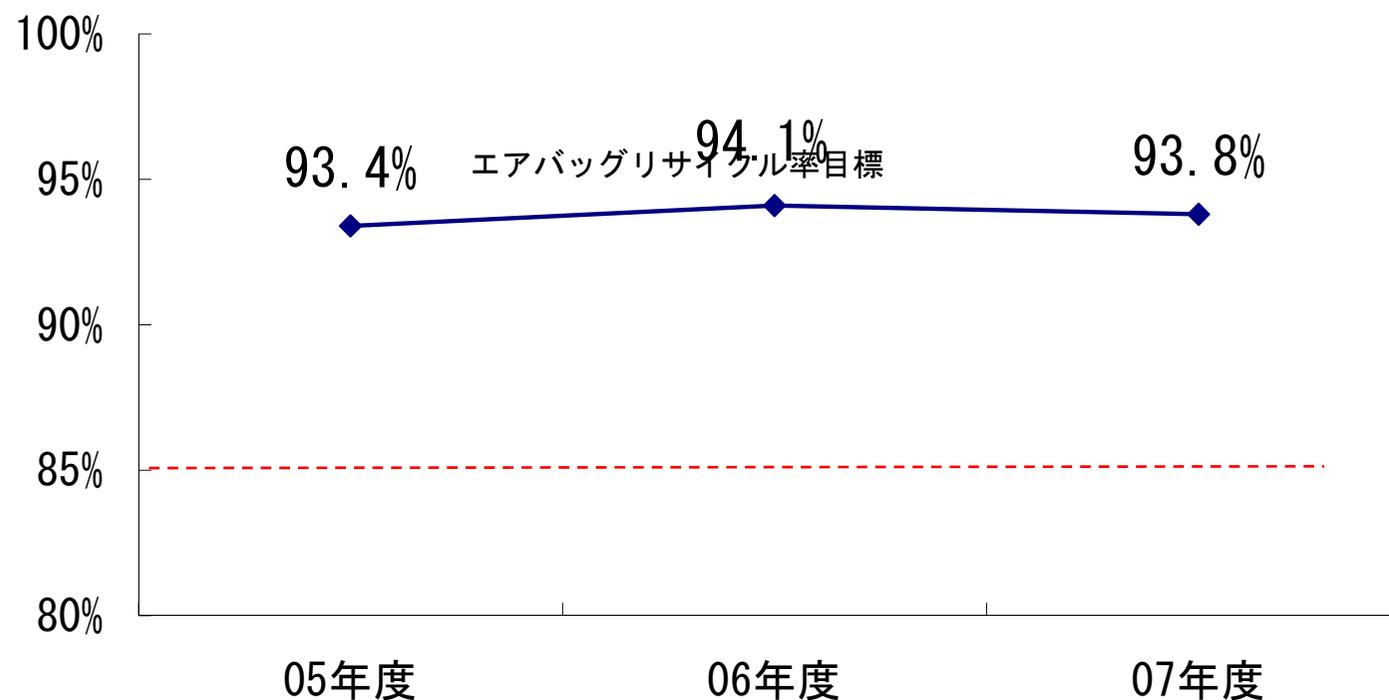


## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### ⑧エアバッグ類の引取状況（リサイクル率）

- ・エアバッグ類の組成はリサイクルしやすい金属分が多く、取外し回収されたエアバッグ類について初年度から高いレベルで安定的にリサイクル率目標を過達。

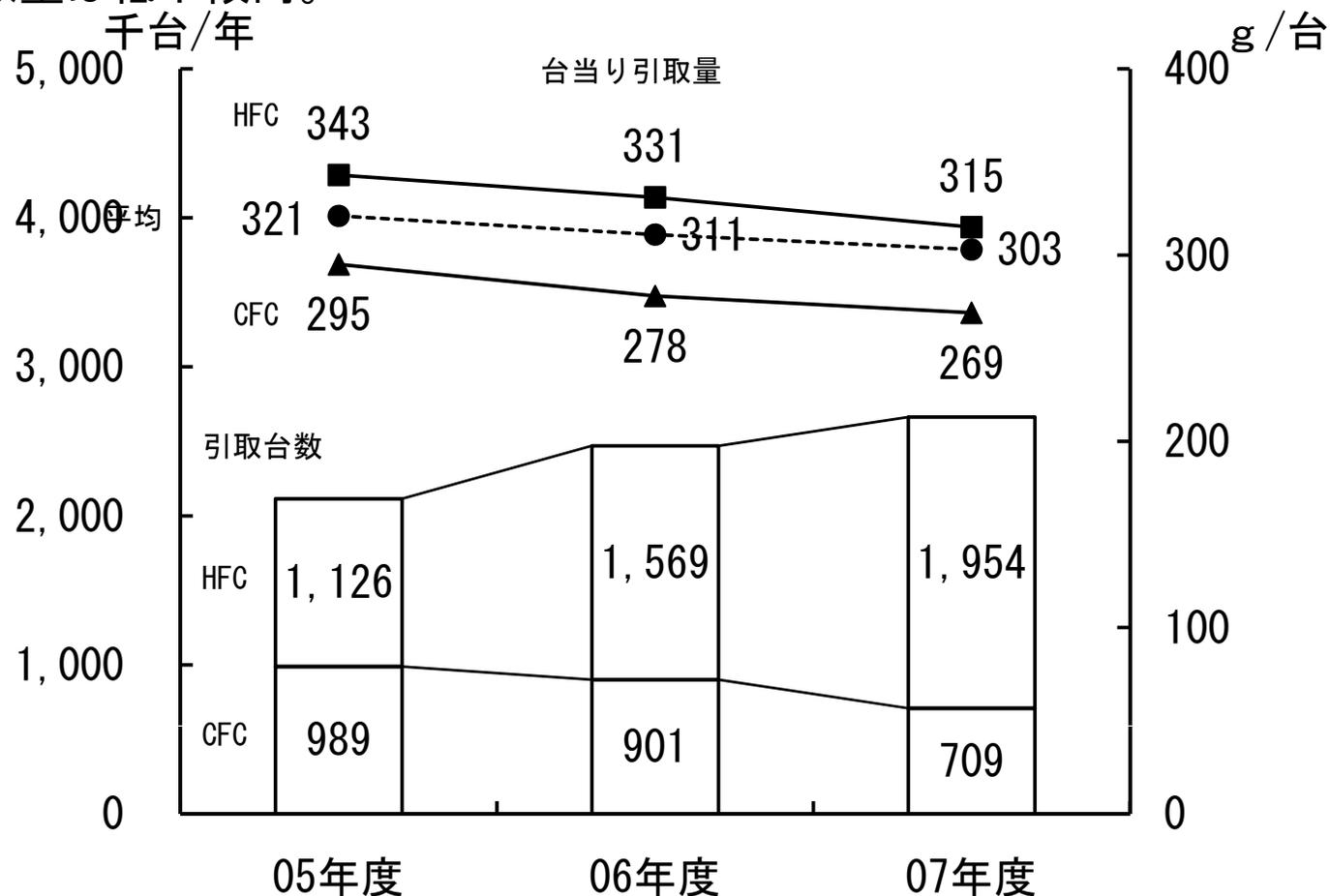
エアバッグリサイクル率（全義務者平均）



## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### ⑨フロン類の引取状況（引取台数・引取量）

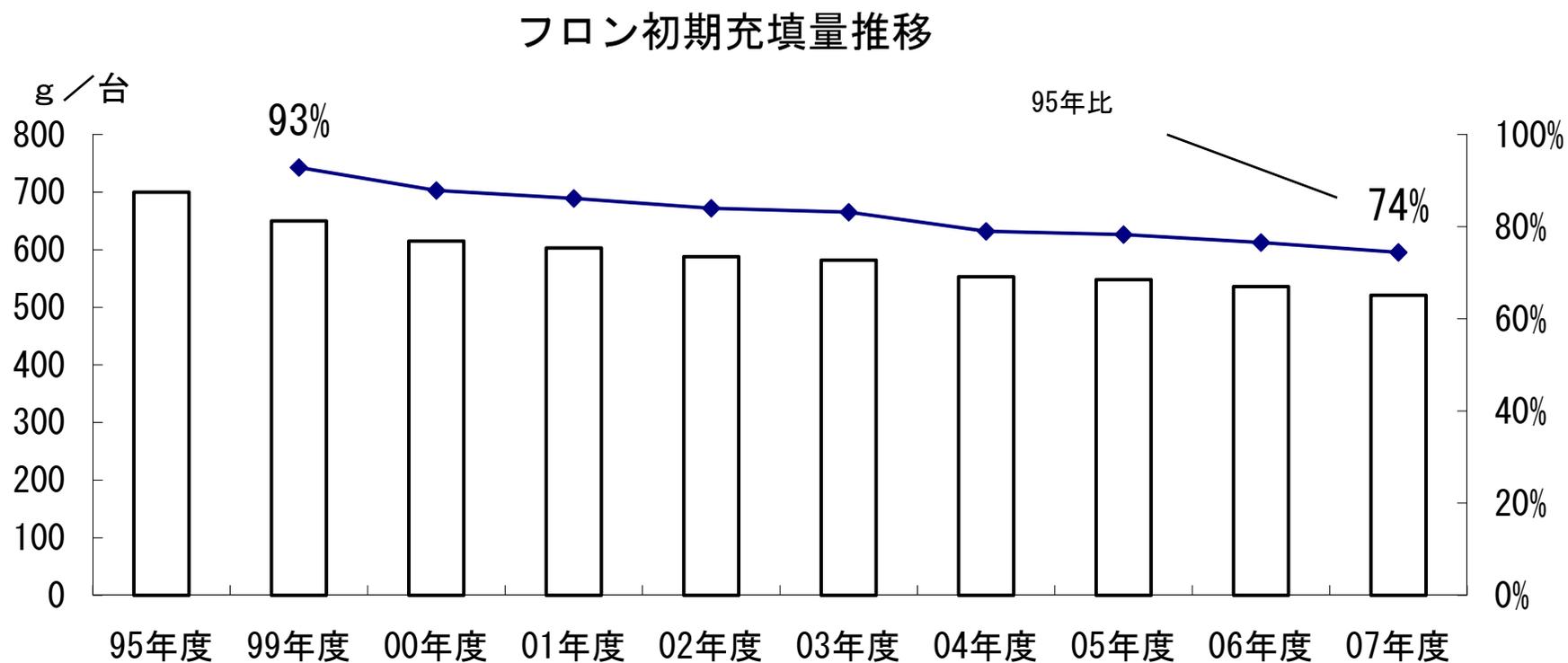
- ・使用済自動車の引取台数の増加に合せ、フロン類の引取台数も増加。
- ・しかしながら、引取車両のエアコン装着率は8割弱程度まで達していることから、今後の装着率の伸びは緩やかな傾向を示すと思われる。
- ・また、省冷媒化の取組みによるフロン初期充填量の減少に伴い、台当り引取量は低下傾向。



## (1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

### (参考) フロン初期充填量推移

- ・ フロンの初期充填量は省冷媒化の取組みにより、07年は95年比で74%のレベルまで低下。



1. 自動車メーカーの果たしてきた役割についての整理

(1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

(2) (1)に必要な体制の整備

(3) 関係事業者との連携によるシステム全体の円滑な運営

(4) 適正なリサイクル料金の設定

(5) 3Rへの取組みと関係者への各種情報の適切な提供

01年9月 産業構造審議会環境部会 廃棄物・リサイクル小委員会  
自動車リサイクルWG「新たな自動車リサイクルシステムの構築  
に向けて」P44・45より

## (2) 3品目の引取りとリサイクルの実施に必要な体制の整備

- ・自動車メーカー等は、リサイクルシステムの構築に関して、累計で142億円ものイニシャルコストを負担。
- ・また、当システムの運営費用約45億円のうち毎年約25億円程度を負担中。
- ・中でも、(財)自動車リサイクル促進センター（JARC）の人件費・物件費は自動車メーカー等の100%負担。

\*なお、当負担費用はリサイクル収支計算の対象外。

表：負担額内訳（単位：億円／年）

	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度 (見込)	累計 (02~)
システムイニシャルコスト	4	27	85	26				142
JARC運営費用総額		9	29	47	51	47	44	227
自動車メーカー負担		9	29	26	28	26	24	142
①人件費・物件費(100%)		3	4	5	6	5	5	28
②システム運営費用(50%)		6	25	21	22	21	19	114
自動車メーカー等負担比率				55%	55%	55%	55%	55%

## (2) 3品目の引取りとリサイクルの実施に必要な体制の整備

- ・その他、JARCへの出向等による人的支援も継続中。

	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度
JARCへの出向社員 (出向者数／在席数)		24名 /53名	26名 /51名	20名 /53名	17名 /46名
システム開発支援	180名	180名			

## 1. 自動車メーカーの果たしてきた役割についての整理

(1) 3品目の引取りとリサイクルの実施

(2) (1)に必要な体制の整備

(3) 関係事業者との連携によるシステム全体の円滑な運営

(4) 適正なリサイクル料金の設定

(5) 3Rへの取組みと関係者への各種情報の適切な提供

01年9月 産業構造審議会環境部会 廃棄物・リサイクル小委員会  
自動車リサイクルWG「新たな自動車リサイクルシステムの構築  
に向けて」P44・45より